

◆ ほっとマンマの営業日が変更になりました

2020年1月以降、新型コロナウイルスの感染拡大が広がる中、政府からの緊急事態宣言が出されました。さまざまなイベントが中止となり、休業や廃業といった事態に追い込まれる事業所も少なくありませんでした。新型コロナ感染拡大が、社会のあり方に影響を及ぼしたことは実感するところです。

「ほっとマンマ」も他の飲食店と同様に、2020年4月から6月始めまで休業、緊急事態宣言が解除された6月からランチタイムのみ営業を再開しました。2021年4月に2回目の緊急事態宣言が発令された際には、スタッフ会議や理事会で話し合いを重ね、店舗内での営業は中止、お弁当のテイクアウトのみとし、区役所などへの配達を行いました。

2023年5月には、新型コロナが5類感染症に移行したことを受け、スタッフのマスク着用やアルコール消毒などは継続しつつ、座席数も以前に戻しました。しかし、こうした状況の中、「ほっとマンマ」の経営は以前にも増して厳しいものとなり、今後継続していくための対策を検討しました。その結果、7月より以下のような新しい営業形態となっています。

……7月からのランチタイム……

- 「ほっとマンマ」の営業は、毎週水・木・金曜日の11時30分～14時までに変更させていただきました。
- 週替わりのメニューは1種類（小鉢2種類は日替わり）とし、コーヒー付で「1,100円」です。
- お弁当のテイクアウトは800円、江戸川区役所には配達します。

……店舗の利用者を募集……

店舗が空いている時には、地域の方に広くご活用いただきたいと考えています。住宅街の中にあり、緑道に面した入り口は隠れ家的な感じで、店舗内は落ち着いた雰囲気です。飲食店に限らず、会議室や集会室のようなご利用も可能です。店舗料金についてはご相談のうえで決めさせていただきます。



ほっと通信

Vol. 88 2025年7月25日発行



発行：NPO法人ほっとコミュニティえどがわ

～もくじ～

- 1p～2p…定期総会報告
- 3P…ほっと応援団
- 4p…ほっとマンマの営業について



〒132-0021 東京都江戸川区中央2-4-18
NPO法人ほっとコミュニティえどがわ
電話/03-3652-7212 FAX/03-3652-7215
Eメール/hotcom@nifty.com
http://hot-edogawa.com/

「NPO法人ほっとコミュニティえどがわ」は、高齢者の新しい住まいづくりを通して人と人が支えあうコミュニティ形成を目指しています。

◆ 2025年度第24回定期総会報告

2004年12月に開設した「ほっと館」は、お陰さまで20周年を迎えることができました。

2025年1月末～3月末には、ここ数年の課題であった大規模修繕を実施することができました。修繕費は、江戸川区中小企業融資制度を利用し、「ほっと館」建設の際に融資を受けていた小松川信金から1500万円を借入しました。工事は、いつも「ほっと館」の修繕をお願いしている工務店に依頼し、屋上、2階のバルコニー、外壁の防水と塗装、雨どいの交換、ベランダの天井面の塗り替えを行っています。



修繕のため覆われた「ほっと館」

また、建設時からお借りしていた「ほっと債」は、運営上の都合で20年間という長きに亘るご協力をお願いすることになりましたが、2024年12月末までにすべて返還することができました。協力者の皆さんからは、一部を寄付にとの声をいただき、「1,775,000円」ものご寄付をいただきました。改めて多くの方々のご支援に感謝いたします。

※ 総会報告/会員31人中、出席9人、委任状17人により、すべての議案は承認されました。

<ほっと館の運営>

◆安心して暮らし続けていただくために

2025年5月1日現在、「ほっと館」では2部屋が空き室となっています。経営的に非常に厳しい状況であると共に、協同の暮らしへの影響も大きいと考えています。広く入居者を募集すると共に、問い合わせも数件あることから、入居に結びつくよう、丁寧にお話を進めていきます。

◆安心して暮らし続けていただくために

- ・これまでの経験から、日常的な関りを大切にしながら、居住者同志の関係性づくりをサポートしていきます。
- ・加齢に伴う体調の変化を心配しなければならない方もいます。常に皆さんの暮らしの近くで、そうした変化にいち早く気づくよう努めていきます。
- ・みなさんの暮らしの安心を担保するために、医療関係者、介護関係者を始め、さまざまな業種の皆さんと必要に応じて連携していきます。
- ・スタッフ会議や、日常の情報共有に努め、すべてのスタッフが自信をもって居住者の皆さんの暮らしに関われるようにします。

NPO法人ほっとコミュニティえどがわの活動

NPO法人ほっとコミュニティえどがわは、高齢者がいきいきと安心して暮らせる場をつくり、その活動を通じて、地域に生活する人々が自ら、人と人との関わりを支えあうコミュニティの創造と地域福祉をすすめることを目的として活動しています。

● 高齢者共同住宅「ほっと館」の運営

自分流の暮らし方を大切にしながら、一緒に暮らす者同士、互いを気遣いあいながら、程好い距離感を保ちつつ暮らす。そんな高齢者のための、新しい安心の住まい「ほっと館」を運営しています。

● コミュニティレストラン「ほっとマンマ」の運営

ほっと館の居住者、地域の皆さんにむけ、安心したお食事の提供をするだけでなく、多様なテーマでの講習会やイベントを実施。地域のほっとスペースとなることを目指しています。現在は毎月第3日曜日12時から「えどがわあったか子ども食堂」第2土曜日16時から「ヤングケアラーズカフェ若葉」を運営する団体に店舗を貸し出しています。

会員募集

<会員> 入会金：一般/5,000円 大学生/2,500円 年会費：一般/6,000円 大学生/3,000円 高校生/1,200円
<支える会> 法人の活動を財政的な側面を含め支援します。 年会費：3,600円

<ほっとサロンの運営>



最後の日は、食事やゲームなどを楽しみました
 最後の日、「ほっとサロン」を無事、終了することができました。

2018年5月からは、開催会場を「ほっとマンマ」に移し「事業対象者」と呼ばれる方たちに向けたサービスの提供を行うこととなりましたが、対象者像が明確でないためか、熟年相談室からの紹介もほとんどなく、経営的に難しい状況が続きました。そこに新型コロナ感染拡大の波が襲い・・・2024年12月末に閉鎖を決断し、22年に及ぶその歴史にピリオドを打つこととなりました。

これに当たり、利用者の皆さんが引き続きお通いになれるデイサービスにつなぐことが責務となりました。担当の各熟年相談室と連携しながら、お一人お一人が納得できるまで、新たな通所先探しを行い、2024年12月28日、最後の「ほっとサロン」を無事、終了することができました。

<ほっとマンマの運営>

コロナ以降、ランチの利用人数が前年と比べて減ったことで経営状況が厳しいことを受け、4月の理事会で今後の「ほっとマンマ」について話し合い、2025年度は経営赤字を100万円以内とすることを決めました。マンマスタッフ会議では、このことを受け話し合いを重ねました。

その結果は、この誌面4ページ目に掲載します。店舗の立地条件が良くないということに甘んじず、さまざまな工夫を凝らし多くの方々を選んでいただける「ほっとマンマ」となるよう、新たに店舗づくりをしていきます。



人気メニュー「揚げ豆腐のエビあんかけ」

<調査研究>

- ◆ 国、東京都及び江戸川区の行政計画等のパブリックコメントについてはほっとコミュニティエドがわとして積極的に意見を発信していきます。
- ◆ 「ほっと通信」をホームページに掲載することで、「ほっと館」の取組みについての情報発信を行い、協働の住まいの意義、作り方、課題などについて認識を広めていきます。
- ◆ 学術団体や住宅関連団体の会報誌等に寄稿し、ほっと館を含めたコ・ハウジングについての認識を広めていきます。具体的には、日本建築学会関東支部が取り組んでいる「東京の住宅地第5版」や日本住宅会議の会報等への寄稿に取組みます

<2024年度決算報告>

(経常収益)		(経常費用)	
1. 会費収入	226,800円	経常費用	
2. 寄付金収入	2,184,100円	(1)人件費	12,007,257円
3. 受取助成金	0円	(2)その他経費	11,349,623円
4. 事業収益	21,822,842円	経常費用計(管理費含)	23,356,880円
5. その他収益(参加費等)	558,150円	税引前当期正味財産増減額	1,435,012円
経常収益計	24,791,892円	法人税、住民税等	70,000円
		当期正味財産増減額	1,365,012円
		前期繰越正味財産	61,205,577円
		次期繰越正味財産	62,570,589円

※東京都に提出する活動計算書に基づく

◆ ほっと館応援団の紹介 ◆

今回の「応援団」のコーナーにご登場いただくのは、今年5月から「生活コーディネーター」として「ほっと館」の現場を担ってくれている田中真理子さんです。
 これまでさまざまな形で、医療や介護の現場に関わってきた田中さんが加わってくれたことで「ほっと館」は更にパワーアップ!

はじめまして

この度ほっと館のコーディネーターとして、週に一回関わらせていただくことになりました田中真理子です。

「応援団」というほどの応援はしていないのですが(笑)、理事のお二人と知り合ってから年数は長いです。25年前に、「ほっとコミュニティエドがわ」と同じ運動グループの「たすけあいワーカーズもも」で一緒に活動したことがきっかけでした。

その後、「ほっと館」の構想がすすめられていることを知りました。「年齢を重ねても自分らしく過ごしたい」、そのための生活の場である住まいを提供したいという思いに共感したのを覚えています。しかし、「ほっと館」を建設するための資金の調達、利用者の募集、運営などのことを聞くと、「実践するのは無理じゃない??」と、応援する気持ちはあっても開設に向けて進むには無謀だとも思っていました。が、無謀だと思ながらも、仲間の思いを達成するために自分にできることを考え、建設資金集めのための「ほっと融資」(個人からの借入)に協力しました。

「たすけあいワーカーズもも」の活動は2年ほどで辞め、その後フルタイムの仕事に戻ったので、理事の二人とも遠ざかっていましたが、毎号「ほっと通信」は届いていたので、「ほっとサロン」や「ほっとマンマ」の様子なども読んでおり、遠くからですが応援していました。

加えて2011年3月の東日本大震災後は、10年余り福島の浜通りで震災後の復興支援のため健康管理の仕事に就き単身赴任生活を送っていました。江戸川区には月に1~2回帰る程度で、皆さんとはますます遠ざかっていました。

昨年60歳の定年退職を迎え、新たな挑戦をと考え、「ほっと館」の近くにある職業訓練校に10月から12月の3か月間通いました。この時に懐かしい顔にお会いしたく、「ほっと館」の扉をたたきました。この間の出来事やそれぞれの近況報告など、話は尽きませんでした。

その後も「ほっとマンマ」の食事をいただきに、数回「ほっと館」に通いました。あれこれしているうちに、コーディネーター依頼のメールが飛びこんできました。

介護でも家事援助でもない「ほっと館」のコーディネーターの役割を伺い自分にやれるのか不安でいっぱいでしたが、入居者のみなさんも先輩コーディネーターのみなさんも優しく受け入れてくださりほっとしています。

時を同じくして「たすけあいワーカーズもも」にも再登録し、訪問介護にも関わることになりました。

「地域で自分らしく生きる、暮らしていくために誰かのお手伝いができればうれしいなあ」という気持ちとともに、「私に何かあったら助けてくださいね・・・」という気持ちで関わっています。

どうぞよろしくお願いいたします。

田中真理子

